

事業概要

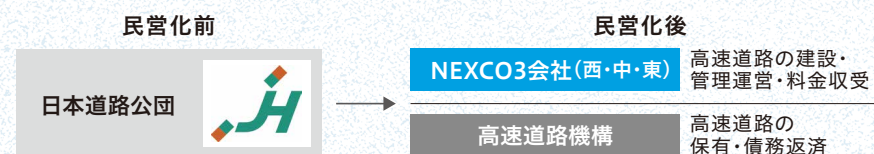
当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。グループ会社とともに、西日本エリアの高速道路の建設や維持管理、SA・PAの運営などを行っています。

事業の枠組み



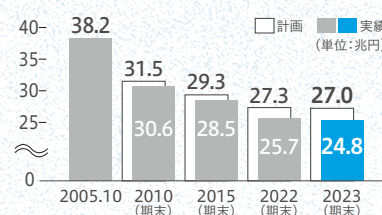
日本道路公団民営化の目的

- 旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
- 必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
- 民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。



※「高速道路機構」「機構」:(独)日本高速道路保有・債務返済機構

高速道路機構の債務残高



※全国路線網(NEXCO3会社)、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、及び全国路線網以外の一般有料道路を含む

高速道路の料金徴収期間

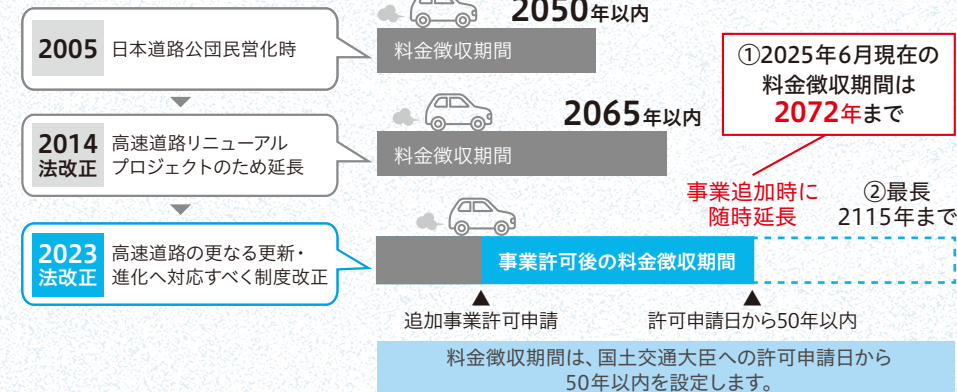
高速道路の有料道路制度

高速道路の有料道路制度は、早期に道路整備を図るため、借入金によって道路を建設し、完成後に、お客さまから通行料金を収受することで、借入金を返済していく制度です。この通行料金の水準は、道路の建設や維持管理に要する費用を、ある一定期間内で償還できるようにするという観点から決定されています。

料金徴収期間

当社設立後、料金徴収期限は、2回の変更が行われました。2023年の法律改正では、①料金徴収期間は国土交通大臣への事業許可申請日から50年以内に設定するものとし、②料金徴収期間の設定は最長で2115年を期限とすることとなりました。

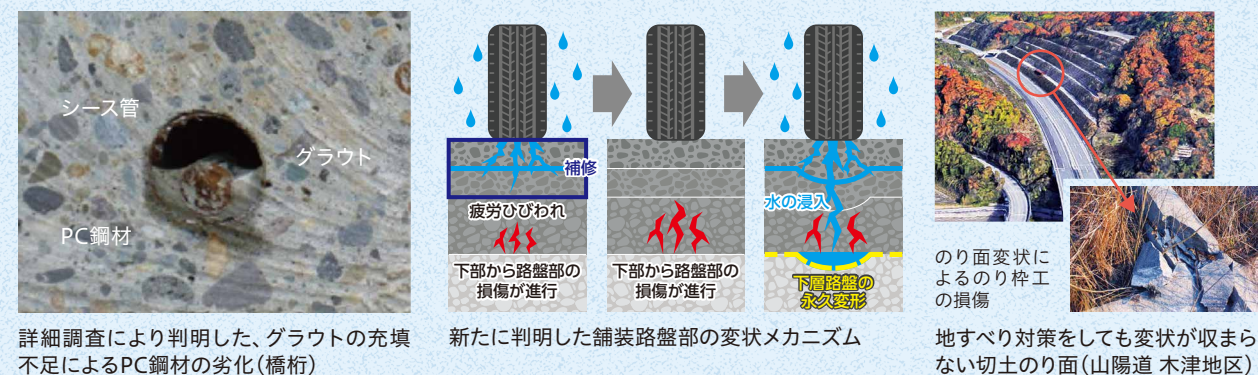
民営化後、現在までの料金徴収期間



2023年の法律改正の概要

老朽化や社会・経済構造の変化に対応した迅速かつ計画的な更新事業・進化事業を実施するために、2023年5月、道路整備特別措置法及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法が改正されました。

更新 点検技術の高度化を踏まえた詳細調査の結果、著しい変状が確認され、新たな更新事業が必要



詳細調査により判明した、グラウトの充填不足によるPC鋼材の劣化(橋桁)

新たに判明した舗装路盤部の変状メカニズム

地すべり対策をしても変状が収まらない切土のり面(山陽道 木津地区)

橋梁

- ・床版取替(P.21-24)
- ・グラウト充填材の再注入

土工舗装

- ・舗装路盤部の高耐久化(P.22)
- ・地滑り対策をしても変状が収まらない切土のり面のボックスカルバート化+押え盛土

進化

社会・経済構造の変化などにより生じた、社会的要請を満たすための機能向上が不可欠

暫定2車線区間の4車線化(P.37-38)/耐震補強(P.25)/SA・PAの利便性向上 等



短時間限定駐車マス(P.46)の実証実験



近年の地球温暖化やデジタル技術の急速な進歩により、今後、高速道路に求められる機能や役割が大きく変化していくと考えられます。

当社グループは、**経営環境の変化に柔軟に対応する「進化」を遂げる**ことで、社会から求められる役割や使命を果たすとともに、高速道路の新たな付加価値を生み出し、進化した高速道路サービスを提供していきたいと考えています。

進化2025の詳細はこちら



役員の声 『進化2025』の最終年度を迎えて

当社グループの高速道路は、2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の流行による経営環境の変化を受けながらも、この4年間で、播磨道(播磨新宮IC～山崎IC)と徳島南部道(徳島JCT～徳島沖洲IC)の開通や、高速道路リニューアルプロジェクト、耐震補強、大型車駐車マスの拡充、店舗リニューアルなど、多くの進化を遂げてきました。最終年度である2025年度も、引き続き着実に事業を推進してまいります。併せて、掲げたビジョンをどこまで実現できたのかを改めて振り返るとともに、将来の高速道路を取り巻く環境や新たなモビリティ社会の到来を見据え、今後当社グループが取り組むべき計画である次期中期経営計画の策定を行っていきます。

代表取締役専務執行役員 経営企画本部長 後藤 貞二



経営環境の変化

高速道路

- 高速道路の老朽化の進行
- 自然災害の激甚化・頻発化
- CASE※1・MaaS※2の進展
- 自動運転技術の向上・発展
- 次世代自動車の普及 等

社会

- 5G※3大容量通信サービスの開始
- AI※4やICT※5等の技術革新の進展
- 少子高齢化の進行
- ポストコロナ社会の新しい生活様式の定着
- SDGs※6の取り組み 等

※1 Connected(コネクテッド)・Autonomous(自動化)・Shared & Service(シェアリング&サービス)・Electric(電動化)
 ※2 Mobility as a Service(サービスとしての「移動」) ※3 第5世代移動通信システム ※4 Artificial Intelligence(人工知能)
 ※5 Information and Communication Technology(情報通信技術) ※6 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

将来のありたい姿

中期経営計画 5つのビジョンと重点施策

新たな時代に即した進化



高速道路の安全・安心を いつまでも守り抜く

- 点検補修の進化[P.19-20]
- 大規模更新・大規模修繕の推進 [P.21-24]
- 交通安全対策の進化[P.27-30]



多発する自然災害から 地域と暮らしを守り抜く

- ネットワークの進化～ミッシングリンクの解消等～[P.33-36]
- ネットワークの強化～暫定2車線区間の4車線化～[P.37-38]
- 高速道路の強靱化～耐震性の向上～[P.25]
- 災害対応力の強化[P.25-26]



新しいモビリティ社会に向けて 高速道路を進化させる

- 高速道路機能の進化[P.34]
- 物流支援～休憩施設の充実～[P.13,45-47]
- 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化[P.44]
- 道路情報提供の高度化
- 通信ネットワークの進化



高速道路の 顧客体験価値を高める

- 新しい価値を提供するSA・PAの進化[P.49-54]



持続的に進化する 企業を目指す

- 高速道路を活用した地域貢献 [P.43,48-54]
- 社員が活躍できる環境づくり [P.57-60]
- DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進[P.11-12,19-20]
- 環境に関する取り組みの推進～脱炭素社会に向けて～[P.61-64]
- 海外事業の発展[P.68]
- SDGs達成への貢献[各ページ]

NEXCO West ACE DXs

Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy.

先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する

“NEW ACE DXs”とは

2021年に定めたDX推進戦略の名称で、社名と「先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する」という英語の頭文字をとりました。DXを推進していくには、グループ全社員間において共通理解を形成することが重要であると考え、統一的な方針のもと有機的な連携を目指すべく、名称を定めました。

DX戦略の詳細はこちら



DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

道路公団民営化時と比較し3倍を超える膨大な事業量に対応し、高速道路の進化を着実に推進するため、DX推進戦略「NEW ACE DXs」を定め、デジタル技術の活用による業務の効率化・生産性の向上を進め、当社グループの企業価値の最大化を目指しています。

重点施策	① マインド醸成	グループ全社員の意識改革
	② 基盤整備	DXに必要な環境整備
	③ 人材育成	デジタル知識を活用できる人財の育成
	④ 業務処理の効率化	業務効率化と自動化の実現
	⑤ 業務・サービスの高度化	高速道路マネジメントの高度化

センサーや衛星データで
変位・土壌水分を計測し、
のり面などをモニタリング

ウェアラブルカメラによる
遠隔立会で、生産性UP

3次元モデルを活用した設計・施工で
効率化・高度化

SA・PA店舗アプリで
効果的な販促とCS向上

有人チャットや
リモート化で
お客さまへのご案内を
向上・省人化

CCTVカメラでのAI判定や
ETCプローブデータで
事故などを早期発見・対応

ドローンや高性能カメラで
橋梁点検を効率化

料金精算機の改良で
タッチレス化・省人化

ETC専用化で
キャッシュレス化
タッチレス化

車載カメラの映像から
AIで変状を自動抽出し
点検を高度化

カメラでのAI判定で
駐車マス混雑情報の
提供を自動化

6車線化や技術開発で
後続車無人隊列走行など
自動運転に対応

走行しながら
覆工表面を撮影し
トンネル点検を効率化

5G通信の活用で
路面清掃を遠隔自動化

高速道路のDXによる業務効率化・高度化イメージ

道路管制センター

AIで事故など交通インシデントの
早期発見・対応の迅速化

ICTの活用で設備管理・点検の
遠隔化・省力化・高速化

オフィス

システム化や
AI、RPAの活用で
業務を効率化

BIやデータの
活用で業務を
高度化

多様な情報をGISで見える化
関連性が一目でわかり
意思決定を迅速化

- DX (Digital Transformation) : デジタル技術を活用して、業務そのものやプロセスを変革すること
- AI (Artificial Intelligence) : 人工知能
- BI (Business Intelligence) : システムに蓄積した膨大なデータを可視化するツール
- RPA (Robotic Process Automation) : 定型的に反復する事務作業を高効率で処理するソフトウェアロボット
- GIS (Geographic Information System) : 地図上で位置や空間に関する情報を管理・分析するシステム